



平成ノ大造営

時満ちて 道ひらく

平成二十九年・丁酉

年頭挨拶



宗像大社 宮司 葦津 敬之

日本書紀によれば、宗像三神は天照大神の神勅(命令)により、歴代天皇が祀るといふ約束のもと、歴代天皇を助けるため宗像の地に降臨されたところ。そして、その記述を裏付けるものが、沖津宮が鎮座する沖ノ島から出土した八万点におよぶ国宝であり、それらは歴代天皇の命により大和朝廷から

宗像三神に捧げられたものである。宗像という地は大和朝廷と連携のもと、朝鮮半島や中国大陸との交流や交易、日本が最初に開国したところでもある。このようなことから神勅にある歴代天皇を助けるという意味は、日本と海外との良好な関係を築くことが宗像の役割だったと考えられている。海外との窓口は、その後、博多湾、大宰府政庁へと変遷するが、天照大神からの神勅は今も宗像大社の最も大切な精神的支柱とされ、沖津宮、中津宮、辺津宮にはそれぞれ神勅の扁額が掲げられ、現代の人々にもそのことは確りと引き継がれている。この神勅を誇りとしてきた宗像において、本年十月二十八、二十九日に天皇皇后両陛下の行幸啓行事「第三十七回全国豊かな海づくり大会」の開催が決定した。天皇皇后両陛下の行幸啓が実現す

れば、初代神武天皇が即位されてより、二千六百七十七年の時を経て、宗像の有史以来はじめてのこととなる。これを一番待たれたのは宗像大神であろうが、当然のことながら地元の人々をはじめ全国崇敬者の喜びも一入である。そして、この歴史の場面に関わることができる私たちは、先人たちの想いを心に深く刻みながら、やれることは全てやり尽くし、お迎えのための万全な準備に取り掛からなければならぬ。今年には順調にいけば夏には世界文化遺産、秋には天皇皇后両陛下の行幸啓と慶事が続くが、この歴史的な行事に携われることに深く感謝しつつも、あらゆる努力を惜しむことなく、振り返った際、多くの方々とよい年だったといえる一年としたい。

宗像大社責任役員会	
代表役員	葦津 敬之
責任役員	出光 昭介
	松尾 新吾
	長尾 亜夫
	麻生 泰夫
	出光 豊
	石原 昭重
	多田 昭重
	谷 正明
	伊東 信一郎
	清水 正敏
	安部 照生
	河辺 俊基
	寺島 亮兒
	倉元 亮兒
宗像大社氏子会	
責任役員代務者	葦津 幹之
監事	安永 治允
	福田 伸孝
会長	置鮎 玄二郎
副会長	瀧口 幸男
	松井 善徳
	沖西 敏明
	山本 和彦
	瀧口 和彦
	安部 和樹
	八尋 隆道
	花田 隆道
	沖西 敏明
	中内 敏明
	豊福 敏明
	遠藤 茂春
副会長	茂春

宗像大社職員	
名譽宮司	太田 可愛
宮司	葦津 敬之
権宮司	葦津 幹之
権宜	渡邊 秀丸
権宜	杉山 安彦
権宜	長友 貞治
	佐々木 大治
	中原 裕生
	神島 直之
	御床 直之
	大塚 宗延
	壹岐 貴寿
	吉田 久賀
	松林 拓
	宗像 崇史
	吉武 誠礼
	鈴木 祥裕
	日高 庸介
	船越 裕介
	黒神 直豊
	石井 あゆみ
	岡田 華代子
	古野 愛美
	佐野 瀨里菜
	篠原 あゆみ
	石井 遥
	陣内 楓
	福永 愛
	城戸 麻美
巫女	城戸 麻美
	花田 みどり
	大西 晶子
非常勤講師	花田 みどり
	大西 晶子
非常勤管理員	吉武 玲子
	阿部 和代
	岩佐 保雄
嘱託	砂場 一明
	井上 善行
	河窪 奈津子
	中野 修
管理員	永嶋 康子
	竹本 あづさ
	吉武 玲子
	阿部 和代
	岩佐 保雄
	砂場 一明
	井上 善行
	河窪 奈津子
	中野 修
学芸員	石津 典秀
	福嶋 真貴子
	正野 崎未希
	熊本 柚香
	花田 智里
	河辺 杏莉
	松元 愛美
	藤田 直美
事務員	石津 典秀
	福嶋 真貴子
	正野 崎未希
	熊本 柚香
	花田 智里
	河辺 杏莉
	松元 愛美
	藤田 直美
管理員	吉田 雅弘
	吉田 雅弘
	倉本 雅弘
	力丸 哲也
	崎間 美津男
	豊福 弘子
	永嶋 康子
	竹本 あづさ
	吉武 玲子
調理員	阿部 和代
	岩佐 保雄
	砂場 一明
	井上 善行
	河窪 奈津子
	中野 修
夜警員	砂場 一明
	井上 善行
	河窪 奈津子
	中野 修

平成29年 元旦 明けましておめでとうございます。

年頭挨拶



福岡県知事

小川 洋

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。宗像大社および地域の皆さまには、日ごろから「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、昨年一月に日本政府からユネスコへの世界遺産の推薦決定を受け、九月にはユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査も行われました。現地調査で

は、国や関係市としっかり連携しながら臨み、本遺産群の世界遺産としての価値や保全状況について、調査員にご理解いただけたと思っています。

本年七月に開催される世界遺産委員会において、世界文化遺産登録の可否が決定します。いよいよ、世界遺産登録も目前に迫ってまいりました。

登録に向けては、地元における機運の盛り上がり重要です。宗像大社におかれましては、昨年九月から十一月末にかけて、神宝館において、沖ノ島から出土した奉献品を一齐に公開する「宗



イコモス現地調査の様子

像・沖ノ島 大国宝展」を開催いただきました。私も貴重な奉献品の数々を拝見させていただき、遙か古代に海を越えて祈りを捧げた人々の息吹を肌で感じました。多くの皆さまに改めて「海の正倉院」と称される沖ノ島について理解を深めていただけたものと思います。

また、本年一月から三月にかけては、九州国立博物館において、特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」が開催されます。

世界遺産登録実現に向けて、宗像大社および地域の皆さまとのより一層の連携を図り、こ



世界遺産推進会議に推薦書提出を報告

の素晴らしい遺産群の価値を世界中の人に理解していただき、次世代へ継承していくべく、全力で取り組んでまいります。

今後とも、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆さまにとって希望あふれる素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたします。



大国宝展見学の様子

年頭挨拶



宗像市長

谷井 博美

あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては健
やかに新年をお迎えのことと、
謹んでお喜び申し上げます。ま
た、日頃より宗像市政並びに、
『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連
遺産群』の世界遺産登録活動に
格別のご理解とご協力を賜り、
厚くお礼申し上げます。

さて、今年はいよいよ『神宿
る島』宗像・沖ノ島と関連遺産
群』の世界遺産登録の可否が決
定します。平成二十一年に本遺
産群がユネスコの世界遺産暫定リ
ストに記載されてから、福岡県、
宗像市、福津市が共同で、県民、

経済団体、文化・教育団体、行政
等で構成する「宗像・沖ノ島と関
連遺産群」世界遺産推進会議を
設置し、世界遺産登録へ向けた
活動を実施して参りました。平
成二十七年七月二十八日、四候
補が競合する中、本遺産群が世
界文化遺産国内推薦候補に選ば
れ、九月八日には正式に国内推薦
が決定しました。昨年一月末に
ユネスコ世界遺産センターへ推薦
書を提出し、九月にイコモスによ
る現地調査が行なわれ、そして
今年の夏、いよいよその登録の可
否が決定します。



豊かな海づくり大会プレイベントにて

登録が決まったらそれで終わ
りというわけではありません。
世界遺産は、国や民族をこえて
人類が共有するべき遺産を登録
するものであります。本遺産群
が登録されるということはこの
貴重な歴史遺産を保全・保護し、
後世に継承していかなければな
りません。

本遺産群の登録活動にあたっ
ては、皆様のご協力、ご支援、
そして多くの企業の方々に様々
な形で応援していただいており
ます。皆様のご協力、ご支援の
おかげでここまでたどり着くこ
とができたことを、厚くお礼申
し上げますとともに、引き続き
ご協力、ご支援賜りますようお願い
いたします。

宗像大社におかれましては、
本遺産群の世界遺産登録に向け
て多大なるご尽力をしていただ
いております。今後も本遺産群
の中心であり、宗像大社を構成
する沖津宮、中津宮、辺津宮の
三宮が子々孫々に受け継がれて
いくように保全・保護に取り組

んでいただきますようお願いい
たします。

末筆ながら、本年が宗像大社
にとってより一層のご繁栄の年と
なりますことを祈念いたします
とともに、皆様にとっても、本年
がより良い年でありますよう心
よりお祈り申し上げます。本年
もどうぞよろしくお願い申し上
げます。



大國宝展開幕セレモニーにて

宗像大社神符頒布始祭

十一月二十八日、来る平成二十九年に向けての宗像大社神符頒布始祭が本殿にて厳肅に斎行された。この祭典が終わると、いよいよ新年に向けた新たな神札の頒布活動が始動する。

当社は、古代九州で唯一「神郡」を持つことが許さ



全国各地の崇敬者の方々に宗像大社神符を頒布している。祭典は氏子総代約七十名参



氏子会長へ大社神符授与

列のもと斎行され、頒布者を代表し宗像大社氏子会置鮎玄二郎会長へと宗像大社神符が授けられた。祭典終了後、清明殿にて氏子評議員会が開催され、古式祭御参列のお願い・人形献米袋取り纏め・正月の祭典、新年一

月十三日に斎行される献米奉告祭氏子奉幣使の選定が協議された。また本年、福岡県神社庁より神社功労者表彰を受けた山本清、小森信策両名の伝達式も行われた。閉会后、氏子評議員の方々は各地に頒布する宗像大社神符・人形を手に大社を後にされた。

永年勤続表彰
山本 清様 (若木台地区)
小森 信策様 (若木台地区)



評議員会の様子

第四回 信州りんご奉納式 長野県産「サンふじ」約500個が奉納

十一月二十六日、長野県松本市のJ A全農長野、松本農業開発センター、松本観光コンベンション協会等信州りんごに携わる諸団体より、本年もりんご約五百個が奉納され、式典後には一般の参拝者にも振舞われた。この奉納は「山のまち」松本と「海のまち」宗像で交流を深めようと平成二十四年より始まり今年で四年目となる。

本殿で行われた奉納式には、宗像市の谷井市長ら宗像市関係者をはじめ多くの参拝者が見守る中、松本市の坪田副市長以下、全農長野、松本商工会議所、松本市関係者ら約三十名が参列。お祓いの後、各代表者より当大社巫女にりんごが手渡され神前に無事奉納された。式典後、七五三詣や神宝館で開催中の特別展「沖ノ島・大国宝展」拝観者で賑わう中、たつぷり蜜が入り、旬を迎えた「サンふじ」が、長野県松本市の観光パンフレットとともに配布されると長蛇の列ができ賑わいをみせていた。

本殿で行われた奉納式には、宗像市の谷井市長ら宗像市関係者をはじめ多くの参拝者が見守る中、松本市の坪田副市長以下、全農長野、松本商工会議所、松本市関係者ら約三十名が参列。お祓いの後、各代表



第三十八回 世界連邦平和促進 全国宗教者・信仰者福岡大会を開催

十一月二十五日、「海の道から導かれた世界平和への智慧」をテーマに、第三十八回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者福岡大会が宗像の地で開催された。

世界連邦日本宗教委員会は、「我が国が唯一の原爆被爆国であり、原爆が



レセプション (玄海ロイヤルホテル)



祈願祭の様子

もたらした人類破滅の警告を宗教者の責務として、全人類にいかに告知するか」の命題のもと、昭和四十二年五月に神道・仏教・教派神道・キリスト教・新宗教の代表的宗教者が新しい世界秩序としての世界連邦の実現を目指し、超宗派の宗教協力組織として創立され、平和促進全国宗教者大会を全国各地で開催

催、また平和使節団を世界各国に派遣して海外宗教者との宗教協力を進め、共同の祈りと対話を通じた活動を続けている。当日は約二〇〇名の宗教者が参加。午前十時から当社祈願殿で「平和の祈り・世界平和祈願祭」が斎行され、各宗教代表者が玉串を捧げた。このあと本殿参拝、神宝館を拝観。会場を玄海ロイヤルホテルに移し開会式があり、大会長である葦津宮司、田中恆清実行委員長(神社本庁総長)が挨拶、宍野史生日本宗教連盟幹事(扶桑教管長)が祝辞を述べた。引き続き葦津宮司が「宗像と海の歴史」、カヤック冒険家の八幡暁が「弱さから見えたもの」と題して講演した。

閉会式では、「海に

囲まれた日本が世界の国々と海を通じてどのようにならなければならないのかを築いていくのが問われており、この海を守ることが多く

の人を守ることになることを自覚し、共に生きていくことを誓い合おう」という内容を盛り込んだ宣言が採択された。

平成28年度

秋季宗像本因坊戦・宗像大社奉納囲碁大会

十一月二十六日、宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会(初段〜五段)が宗像・福津両市内から一三六名が参集し、斎館・清明殿で開催された。



囲碁大会は十九組一一四名が参加し初段〜五段を六人一組に別け、各組ごとに優勝者を決定した。宗像本因坊戦は、その年の実力ナンバーワンを決める大会で、五、六段の高段者十二名によるトーナメント形式で行う。

熱戦の末、石田徳房氏(六段)が優勝を果たした。

○成績は次の通り

宗像本因坊

石田 徳房(宗像市)

準優勝

守田 睦明(宗像市)

三位

村社 好男(福津市)

大注連縄奉製奉仕 三宮の注連縄六本奉製

十一月二十二日、沖中両宮奉賛会・同翼賛会・同敬神婦人部の御奉仕により、新年に向けて大注連縄の奉製が行われ、中津宮本殿・拝殿、御嶽神社、辺津宮拝殿、第二宮、第三宮の計六本が美しく整えられた。

当日の早朝、奉仕者はお祓いを受け奉仕を開始、二十数名の奉仕者は二手に分かれ作業を行った。漁師町ならではのテグス(釣り糸)で注連縄の元となる藁束を締め上げたもの二本を結び合わせ大注連縄の完成となる。テグスできつくる。締められた注連縄は、成人男性約二十名掛かりで何とか結わえる硬さである。これを六本奉製し終えた頃には夕日も沈み掛けており、奉仕者一同腕に力が入らない状態であった。



沖中両宮奉賛会・翼賛会

十二月十日に辺津

宮拝殿、第二宮、第三宮の掛け替え、十二月二十日に中津宮本殿・拝殿、御嶽神社の掛け替えが行われ、境内には真新しい藁の香りが漂った。

また、十二月十四日には、沖津宮・中津宮各所の小注連縄奉製奉仕が、同じく沖中両宮奉賛会・同翼賛会・同敬神婦人部の方々により行われ、三m、五十cmのものまで、約百本もの注連縄を奉製頂いた。



大島での奉製作業

御奉仕頂きました皆様にお心より御礼申し上げます。

「宗像・沖ノ島大国宝展」閉幕 県内外より約四万人が来館

九月十七日より当社神宝館にて開催していた、特別展「宗像・沖ノ島大国宝展」が十一月二十八日に閉幕した。

この特別展は約八万展の国宝の中から選りすぐった一万六千三〇〇点を一同に展示。初公開を含め、沖ノ島の国家祭祀を象徴する銅鏡や奈良三彩、金銅製雲珠などを一挙に展示し、これまでにない規模となった。



期間中には学識者とい



この特別展で国家祭祀の意義や国宝の神宝がもつ美と趣にせまり、古代の人々の敬虔な祈りの一端に触れることができたのではないだろうか。



12月15日 整備中の拝殿前

拝殿前敷石の拡幅工事を行なった。以前の敷石は経年による劣化が著しく、窪み等が多く見受けられ、今回整備工事の運びとなった。工事は、近年の参拝者数増加に対応すべく拡幅して整備された。十二月六日に着工、天候の影響を受け年末の完工とはなったが、整備された敷石のもと新年は清々しい気持ちでお参りをして戴きたい。

〽 拝殿前敷石整備工事 〽

時満ちて道ひらく
造営日記
②9

大和朝廷

沖ノ島と

宗像

Special Island of OKINOSHIMA in Munakata Region and the Yamato Imperial Court

九州国立博物館 特別展

2017年 1月1日(日) 祝日 → 3月5日(日)

九州国立博物館 (太宰府天満宮後)

九州国立博物館・特別展のご案内

節分祭の御案内

今年も下記日程で節分祭を
 斎行致しますので、皆様振るって
 ご参列下さい。

宗像観光協会主催 豆まき

2月3日(金)

- ◆ 節分祭 午前11時～
於=本殿
- ◆ 豆打ち式 午前11時30分～
於=斎館前 特設舞台

第六六五回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区 豊田 光子

流れ雲形変へつつ河川敷に出合ひもありてコスモス映ゆる
雲に作者が反映しているよう。言葉を整理し「かたち
変へ出会ひ離れるながれ雲河川敷にはコスモスゆれて」

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

手の平に受けんとすれど逸れたりし風花幾つ土に戻りぬ
晴天なのに舞う小雪、季節感のある歌。結句へ土に溶
けたり〜ではいかが。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

実の多きクログネモチの枝残し冬に飛び来る野鳥待ちおり
野鳥好きの作者。三句以下をへ枝残す庭に飛びくる野
鳥を待ちて〜と三句切れにしては。

宗像市 多禮 早川 祥三

千歳飴振回して七五三芳香撒く菊花の日和
情景が面白い。へ菊の香の高き齋庭に千歳飴振り回し
てる七五三の児」と語順を変えて。

宗像市 宮田 山本 静子

ああうれし何がそんなに友よりの讃岐の初「あわせ」の小箱
友の贈り物の嬉しさ。へああ嬉し讃岐の友から初めて
の「あわせ」の小箱送られてきて。

福津市 若木台 山崎 公俊

神苑に人あふれをり菊花展と国宝展に賑はふ日々よ
いつもは静かな神苑に人が多いのを喜ぶ作者。結
句を「日々賑はひて」としては。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

いまは亡き三笠宮にお供して海で禊ぎ沖ノ島ゆく
思い出を大切にしていた作者だろう。下の句へ海で禊
て沖ノ島ゆきき」と過去形に。

宗像市 池田 森 龍子

落葉せる木の間を縫ひて高窓に夕日の余りか真赤き光り
景が見えてくるような鮮やかさ。四句をへ夕陽の名残
の〜としては。

宗像市 日の里 大和美由紀

トントンと金槌の音響かせて夫は温室組み立てはじめ
穏やかで良い歌だが、やや平板な印象なので上の句
と下句を入れ替えて再考しては。

北九州市 門司区 北野カズミ

球根の命ふたたび燃えあがりことしのネリネくれなる濃ゆし
二句は言葉が強いのでへ球根が力ふたたび取り戻し
と抑えるとネリネの紅が映える。

宮若市 宮田 本田エリナ

黄金のつわぶきの花魔院の庭に輝き見る人もなし
つわぶきの花の印象的な歌。下の句の語順をへ見る人
の無き魔院の庭に輝く」と。

宮若市 水原 吉崎美沙子

ひつじ田の短き垂穂そよがせて祭りの太鼓更に早まる
晩秋の祭の日か。観察力の鋭い作者だろう、ひつじ田
の穂の描写が良い。

◆ 選者詠

櫛型の骨がきれいに残りをり夫の食べたる太刀魚の皿
いろ淡く花の絵を描く喪中がき日々にとどけり秋ふかまりて

第六三八回

俳句 作品集

宗像市 多禮 早川 祥三
新米の夢や光の封を切る

1月 祭事暦

- 1日 元旦祭 午前9時〜 総社祭 引き続き 高宮地主祭 高宮祭、第二宮・第三宮祭、末社祭
- 3日 元始祭 午前9時〜 宗像護国神社新年祭 午前10時〜
- 10日 恵比須祭 午前10時〜
- 13日 献米奉告祭 午前11時〜
- 15日 月次祭 併 成人祭 午前10時〜 高宮祭、第二宮・第三宮祭 午前11時〜 総社祭・成人祭

編集後記

あけまし ておめで とうございます▼さて平成 二十九年は「丁酉」の年でござ います。昨年は各地で自然災 害が起こり、世界の情勢に目 を向ければテロなどの事件も 起こり、暗い話題の多い一年で あったように思います▼鶏は神 話のなかで夜明けを告げると されています。皇紀二六七七 年が「夜明けの年」となること を祈念致しております▼今年 も社報「宗像」をよろしくお願 い致します。(黒)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒811-1350 福岡県宗像市田島233-1

電話 (0940)621-3111 (代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神

制作・印刷ゼネラルアサヒ